

ジョージアの通貨とトルコリラ

今年のアジア開発銀行（ADB）の総会はジョージア（グルジア）で先週開催されたが、ジョージアでは外国代理人法案を巡って政治的対立が深まっている。ジョージアは EU への参加を国の方針として定めているが、現政権はロシア寄り、ロシアと似たような法案を通して西側寄りの活動を規制しようとしている。

ジョージアの首都トビリシからコーカサス山脈を越えてロシア国境に向かう軍用道路（ロシアがジョージア侵攻の際に利用した）のロシア国境に近いところではロシアに向かう物資満載の多数のトラックの渋滞に遭遇した。ガイドが数えた日は 2500 台ほどあったという。ジョージアはもちろん隣国アルメニアなど外国の物資の輸送にも利用される。トンネル工事を請け負っていた中国企業も利用するはずだ。

ジョージアの通貨はラリ。ラリ円は、3 年前は 30 円ちょっとだったが、先月訪れたときは 60 円ほどだった。円の購買力はラリに対して半減したわけだ。ラリは域外では交換性はないが、街中ではドル、ユーロ、そしてルーブルは自由に交換できる。これは他のコーカサスの国であるアルメニア、アゼルバイジャンでも同様だ。ただアルメニアとアゼルバイジャンでは互いの通貨の交換は絶対無理、ナゴルノ＝カラバフ戦争の影響もあり無理どころか通貨を投げつけられるかもしれない。

ところでジョージアの隣国トルコの通貨リラだが、リラ安もそろそろ頭打ちの可能性もある。ドルリラは先週の米雇用統計でドルが売られる前から上昇に歯止めかかったように見える。ドルリラは先月 32 台半ばを超えたあたりをピークに頭打ちになり、直近では 32.25 水準だ。

トルコ中銀は 3 月に政策金利を 45% から 50% に引き上げ、4 月下旬の会合では据え置いた。利上げは打ち止めの見込みだったが、インフレが中銀の見込み以上に上昇したためだ。3 月のインフレ率は 68.5%、4 月は 69.8% で利上げ後も上昇は続いている。インフレが一層上昇傾向を辿れば中銀はさらに利上げを迫られ、その過程でリラ安の再燃もある。

だがこのあたりでインフレの上昇スピードも弱まるのではないか。そして金利もピーク水準にあるだろう。

理由は二つ。S & Pがトルコの格付けをBからB+に引き上げ、インフレ抑制、リラの信認回復、経常収支の赤字縮小に期待を示した。だがインフレ率は28年までに一けたに下がることはないとも付け加えた。海外からの資本流入は期待できるが金利は大幅に下がらないということだろう。

もう一つはエルドガン大統領の姿勢だ。3月末の地方統一選挙では負けたが、新しい経済チームのインフレ抑制、利上げの方針に口出しすることがなかった。リラ安の根本原因の一つだった大統領の政策に対する考え方は本当に転換したと考えられる。

以上の点からリラショート相場からリラロング相場へと方針転換のチャンスが訪れたのではないか。慎重にいくならもう少しインフレの状況を見てからでも遅くはないだろう。転換後の相場は長く続く可能性があるからだ。